

## 御成敗式目

かまくらばくふ

作者:鎌倉幕府

成立:貞永元年(1232)



## 解題

## Keyword

- 貞永式目
- 北条泰時
- 北条時房
- 評定衆
- 「中世法制史料集」

鎌倉幕府が制定した最初の成文法である武家の基本法典。「御成敗」は裁決の意で、裁判規範という性格を表す。成立年号から「貞永式目」とも呼ばれる。

## ■ 成立経緯

貞応3年(1224)幕府第3代執権となった北条泰時は、承久の乱(1221)後の政治社会情勢に対応すべく、叔父北条時房を連署とし、評定衆を設置するなど合議制を強化する一方、紛争処理のための成文法編纂を進めた。制定の詳しい経過は不明であるが、泰時を中心に法理に精通した評定衆の成員が起草・編纂に当たり、貞永元年(1232)7月に完成、同年8月公布された。

## ■ 内容

漢文で書かれ、51か条から成る。各条文は、最初にその件名を掲げ、次に具体的な規定を(必要に応じて理由や但し書きも)述べる。内容は、社寺、守護・地頭、所領、刑罰、家族・親族、訴訟などにわたり、幕府御家人を対象にしたものである。巻末に泰時・時房・評定衆11人の起請文(きしょうもん:式目遵守の誓約書)がある。式目からは、源頼朝以来の先例と「道理」の観念により、公正な裁判の実施をめざした泰時ら鎌倉武士の思想がうかがえる。この法典はその後の歴史で特別な尊崇の念を集め、近世には寺子屋の教材にもなって広く国内に浸透した。なお、式目制定後に幕府が発した多数の法令(追加法)は、式目とともに『中世法制史料集 第1巻』(岩波書店)に収録されている。

## 諸本

原本や幕府が公式に配布した初期の写本は現存しないが、多数の写本が伝えられ、古写本では、鎌倉中期とみられる菅孝次郎旧蔵本、鎌倉後期から南北朝初期の鶴岡八幡宮寺旧蔵本(鶴岡本、尊經閣文庫蔵)などが代表的なものである。版本も室町後期から幕末までおびただしく刊行された。また、注釈書も早くから作成され、主な古注釈は『中世法制史料集 別巻』で読むことができる。



### 史料本文を読む

#### <版本>

- 『御成敗式目 両点附』山崎屋清七 1762(宝暦12) [K32/23]

#### <影印本>

- 『御成敗式目：影印・索引・研究』高橋久子・古辞書研究会編著 笠間書院 1995 (笠間索引叢刊108) [K24/328] ※寛永5年(1628)版本。翻刻も併載
- 『御成敗式目』大阪青山短期大学国文科編 大阪青山短期大学 1996 (大阪青山短期大学所蔵本テキストシリーズ 3) [K24/343] ※中村直勝旧蔵本

#### <翻刻本>

- ◆「御成敗式条」(『群書類従』第22輯 武家部 卷400 [K08/17/1-22])
- ◆「御成敗式目」(『日本経済大典』第1巻 史誌出版社 1928 [308/16/1])
- ◆「御成敗式目」(『大日本史料』第5編之8 東京帝国大学史料編纂所 1931 [210.08/5/5-8]) ※菅孝次郎本
- ◆「校本御成敗式目」(『中世法制史料集』第1巻佐藤進一・池内義資共編 岩波書店 1955 [K24/135/1]) ※鶴岡本を底本に諸本を校合
- ◆長塚孝「馬の博物館本「御成敗式目」の紹介と翻刻」(『馬の博物館研究紀要』(13) 馬事文化財団 2000) [K05.13/2/13] ※鎌倉後期(推定)の写本

#### <注釈本>

- ◆「御成敗式目」笠松宏至校注(『日本思想大系21 中世政治社会思想 上』岩波書店 1972 [K32/20/1])



### 史料についてさらに知る－参考文献－

- 『御成敗式目研究』植木直一郎著 名著刊行会 1976 [K24/315]  
※岩波書店1930年刊の覆刻
- 『御成敗式目の研究』池内義資著 平楽寺書店 1973 [K24/80]
- 『日本の革命の哲学』山本七平著 PHP研究所 1982 [121/128]
- ◆佐藤進一「御成敗式目の原形について」(『日本中世史論集』佐藤進一著 岩波書店 1990 [210.4/254])